

令和 8 年度第 2 回金谷区地域協議会 次 第

日時：令和 8 年 5 月 13 日（水）午後 6 時 30 分～
会場：金谷地区公民館 集会室 1・2

1 開会

2 自主的な審議

- ・金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ！！
について

① 金谷山公園についての勉強会（観光施設課説明）

② 意見交換

3 その他

4 閉会

【次回協議会 : 6 月 10 日（水）午後 6 時 30 分～、金谷地区公民館】

【次々回協議会 : 7 月 8 日（水）午後 6 時 30 分～、金谷地区公民館】

金谷山公園の「観光施設」の現状

目 次

- ① 金谷山公園の主な観光施設
- ② リフト利用者数(冬季)の推移
 - 2-1 参考)スキー人口の推移
 - 2-2 参考)高田の最深積雪の推移
- ③ スーパーボブスレー利用者数の推移
- ④ BMX場の利用者数の推移
- ⑤ 金谷山公園管理運営費の推移
- ⑥ 主な観光施設を除く金谷山公園の活用事例
- ⑦ 金谷山公園の現状(まとめ)

令和8年5月13日
文化観光部
観光施設課

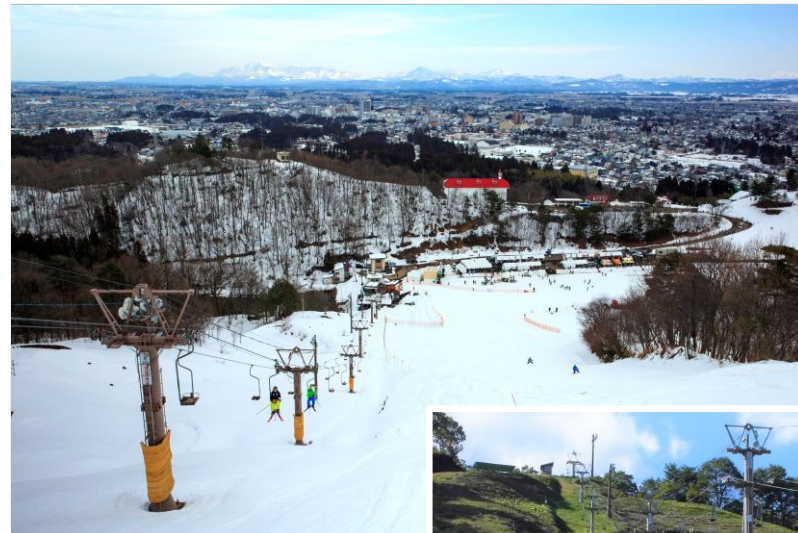
1 金谷山公園の主な観光施設

① スキー場リフト

昭和35年に建設され、スーパーボブスレーの整備に合わせて、昭和59年度に改造(大規模改修)。

鉄筋コンクリート造2階建ての管理棟、木造の監視所2棟、鉄筋コンクリート造・木造の公衆トイレを備える。

1月12日から3月下旬まで営業(積雪状況による)。大人 210円/回、子ども(中学生以下) 160円/回。



② スーパーボブスレー

昭和59年度に、延長450mの第2レーンを増設。

4月中旬～10月下旬までの土日祝、夏休み期間に営業。
200円/回。



③ BMX場

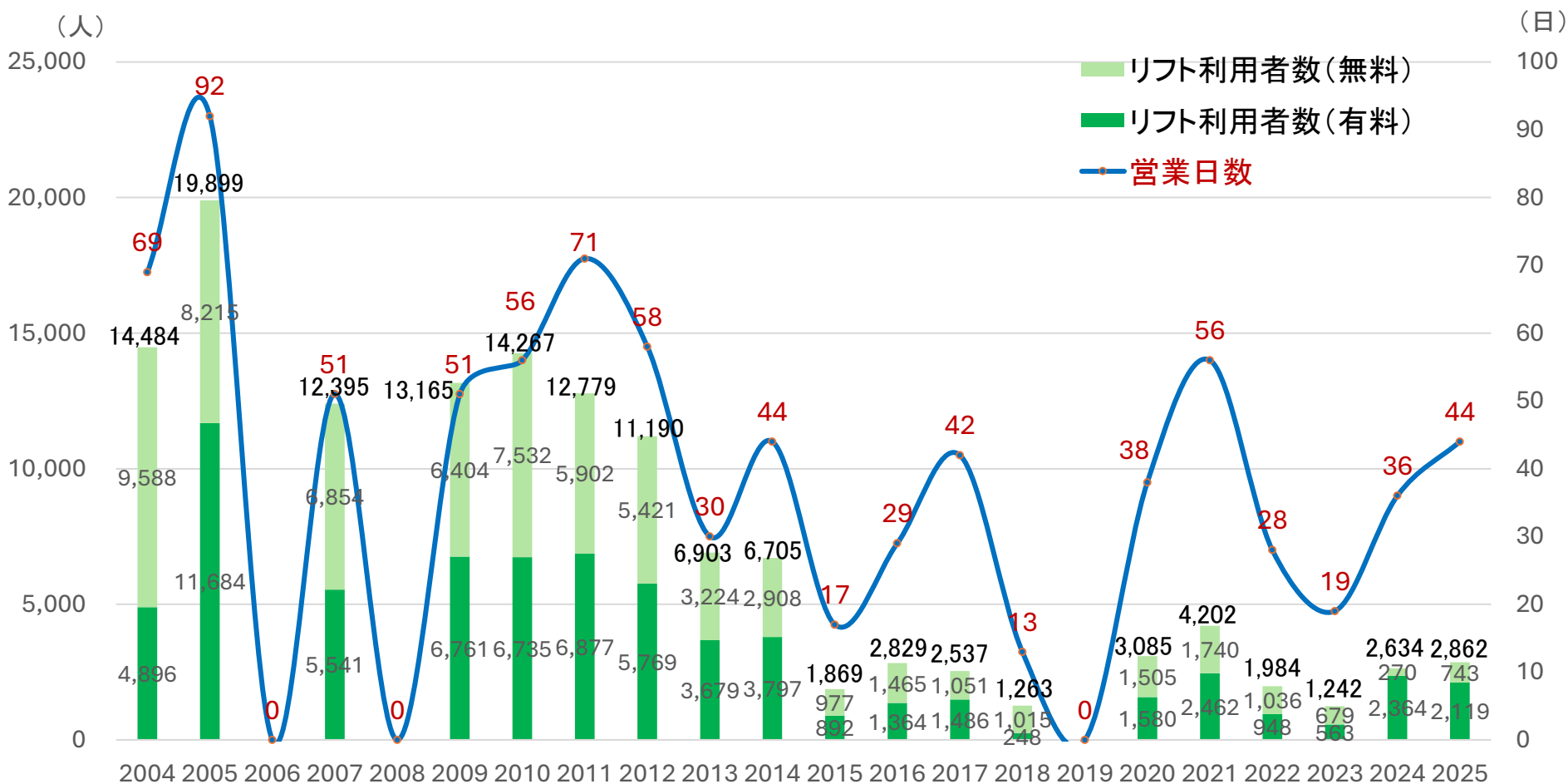
平成10年度に整備。コース延長は350m。

鉄筋コンクリート造2階建ての休憩施設、公衆トイレを備える。4月中旬～10月下旬までの土日祝、お盆期間に営業。専用自転車レンタル1台200円/時間。



2 リフト利用者数(冬季)の推移 (2004~2025年度)

- スキー場の営業日数は減少傾向にあり、近年は1か月程度である。
2004~2014年度(11年間)の平均営業日数は47日間であるのに対し、2015~2027年度(11年間)は、29日間。
- 積雪量やスキー人口の減少などの影響もあり、近年のリフト利用者数は、大きく減少している。



日本のスキー・スノーボード人口は、1990年代前半の約1,800万人(1993年頃)をピークに激減し、現在はピーク時の約1/4以下(400～500万人程度)で推移している。バブル崩壊、若者のレジャー多様化、経済的ハードル、雪不足が主な減少要因である。

【スキー人口減少の主な要因】

- 1 **経済的・時間的コスト** 高価な道具やウェア、リフト券代・移動費がかかり、若者の「車離れ」や「安・近・短」志向により、敬遠されがちに。
- 2 **趣味の多様化** ネットやゲーム、他のレジャーなど、冬の過ごし方が多様化した。
- 3 **スキー場の減少** 利用客の減少に伴い、1999年の698カ所をピークにスキー場も減少。2025年には約417カ所まで減っている。
- 4 **少子高齢化・雪不足** 少子化による若者減少と、地球温暖化による雪不足も長期的要因。

【近年の動向と今後の展望】

- 1 **インバウンド需要** 日本のパウダースノーは海外で高く評価されており、外国人スキーヤーが増加傾向にある。
- 2 **シニア・一人スキー** 50代・60代の男性を中心に、一人でスキーを楽しむ「おひとりさま」需要も顕在化している。
- 3 **初心者への獲得** 施設側は「レンタル用品の充実」や「レストランの魅力向上」など、ライト層・初心者向けの施策に力を入れている。

📌 日本のスキー・スノーボード市場は、かつてのような大規模な大衆ブームから、特定の愛好家や外国人旅行客をターゲットとした市場へ構造転換している。

2-2 参考)高田の最深積雪の推移 (観測地点:旧高田測候所)

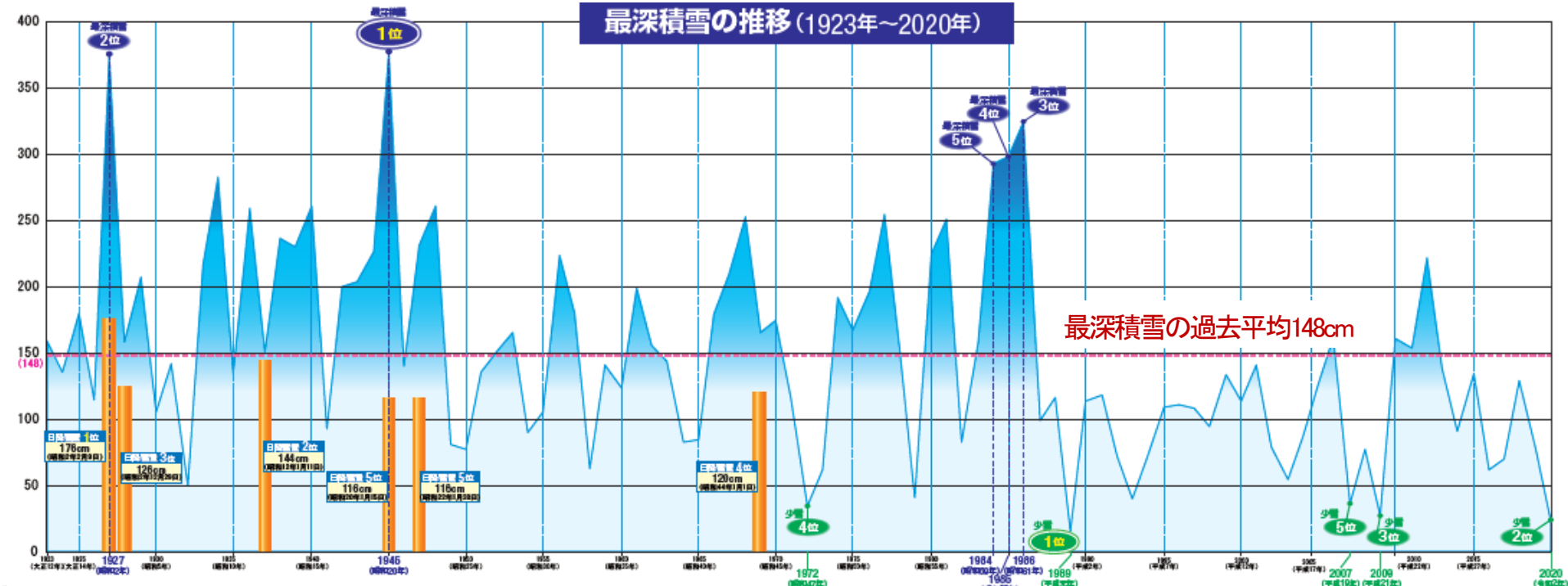
昭和中期(30～60年代)までは3mを超える記録的な大雪が頻発していたが、平成以降は温暖化の影響もあり、全体として減少傾向にある。

令和7年度は、最大積雪深・累計降雪量ともに、過去2年間を上回る推移となった。

最深積雪 最大トップ5

1位:377cm 昭和20年2月26日	2位:375cm 昭和2年2月9日	3位:324cm 昭和61年2月6日	4位:298cm 昭和60年1月30日	5位:292cm 昭和59年2月17日
------------------------	----------------------	-----------------------	------------------------	------------------------

最深積雪の推移(1923年～2020年)



出所) 国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所、高田特別地域気象観測所(旧高田測候所)の雪に関する記録(1923～2020年)

<https://www.hrr.mlit.go.jp/takada/yuki/6845/index.html>

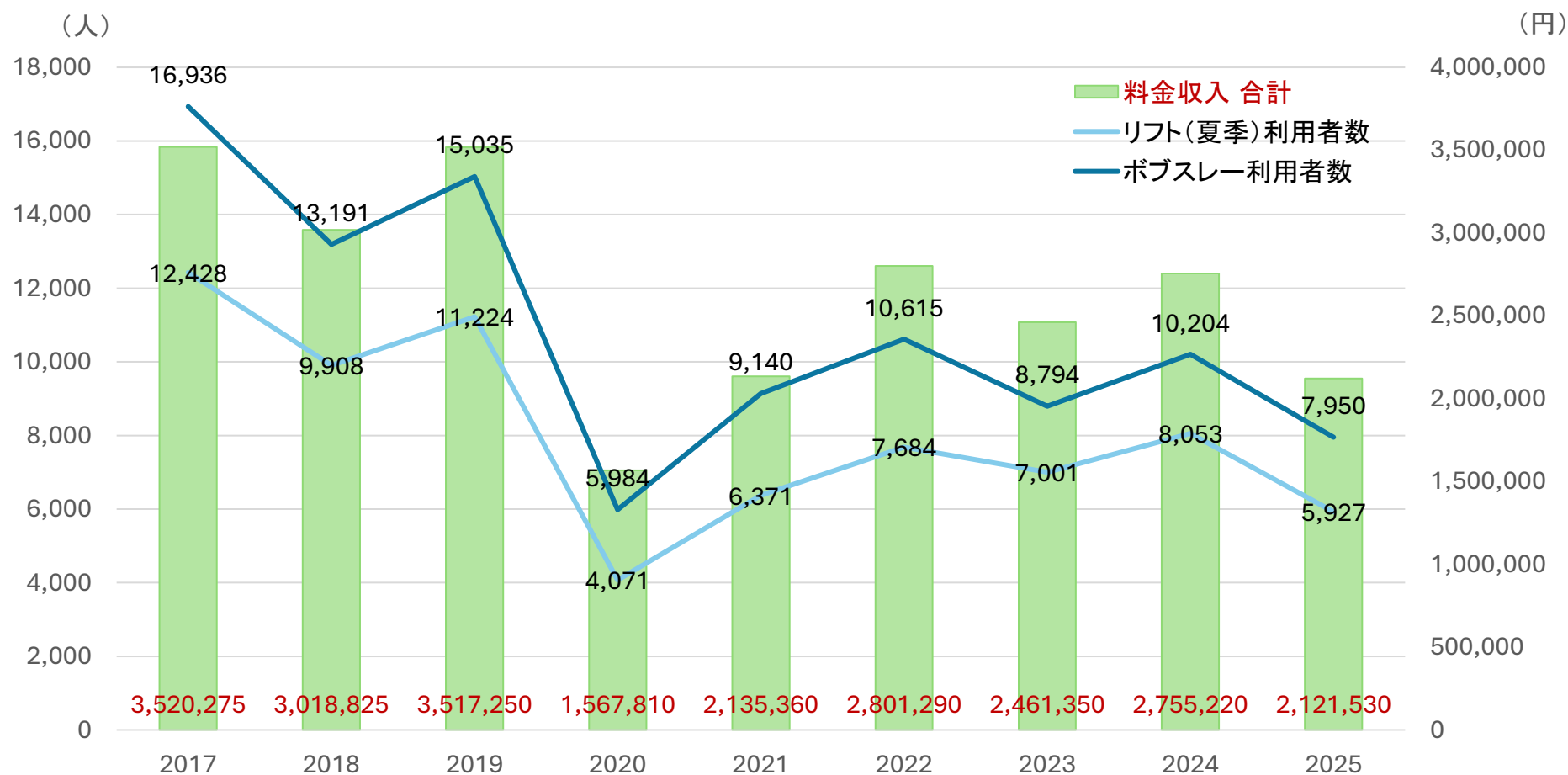
最深積雪 最小トップ5

1位: 15cm 令和元年2月4日	2位: 23cm 令和2年2月9日	3位: 27cm 平成21年2月4日	4位: 34cm 昭和47年11月30日	5位: 37cm 平成19年3月8日
----------------------	----------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------

3 スーパーボブスレー利用者数の推移（2017～2025年度）

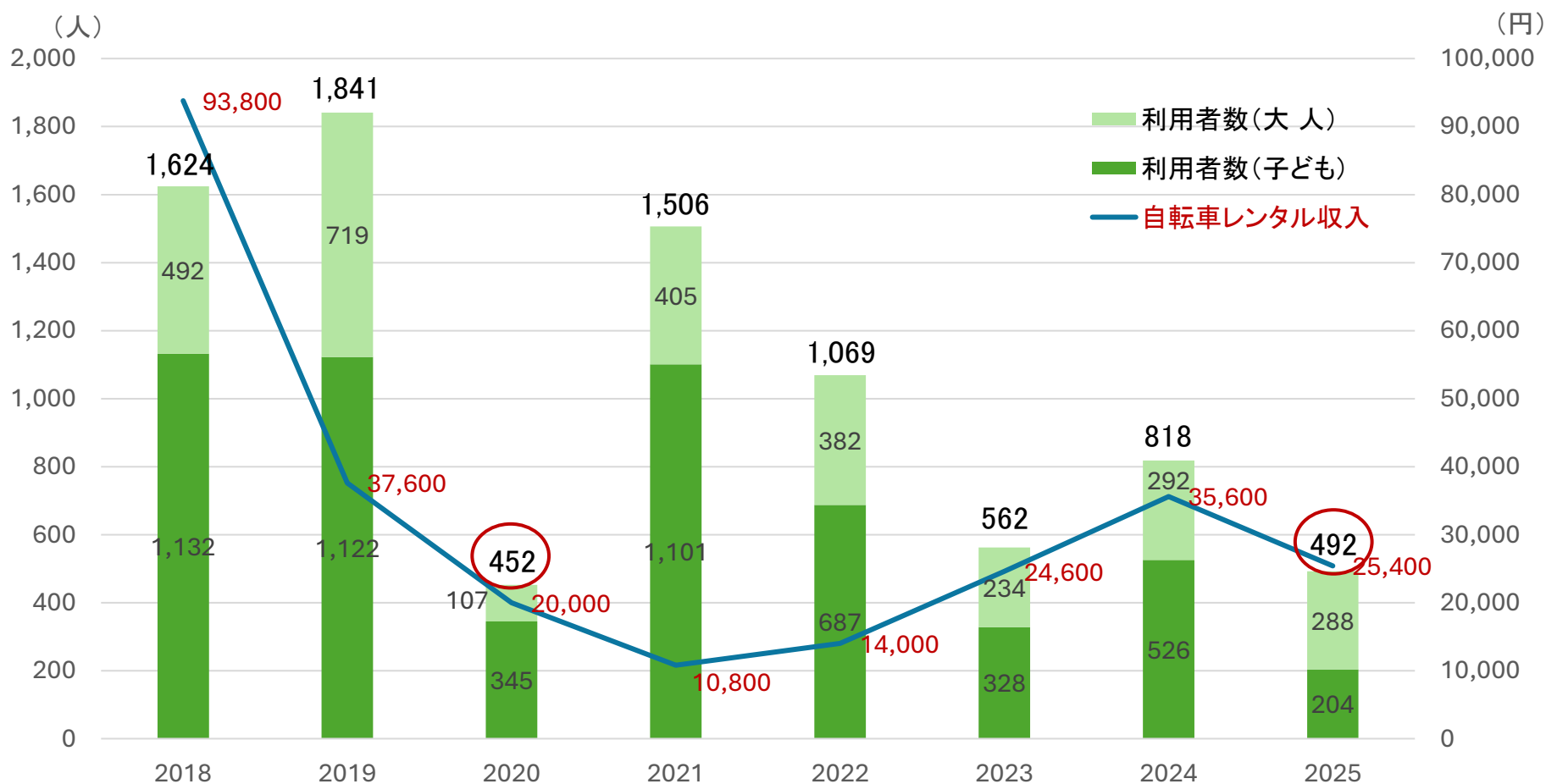
- スーパーボブスレーの利用者数は、コロナ禍で大きく減少した後、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の状況には至っていない。

参考) 2025年度の利用者数は、2019年度比の52.9%



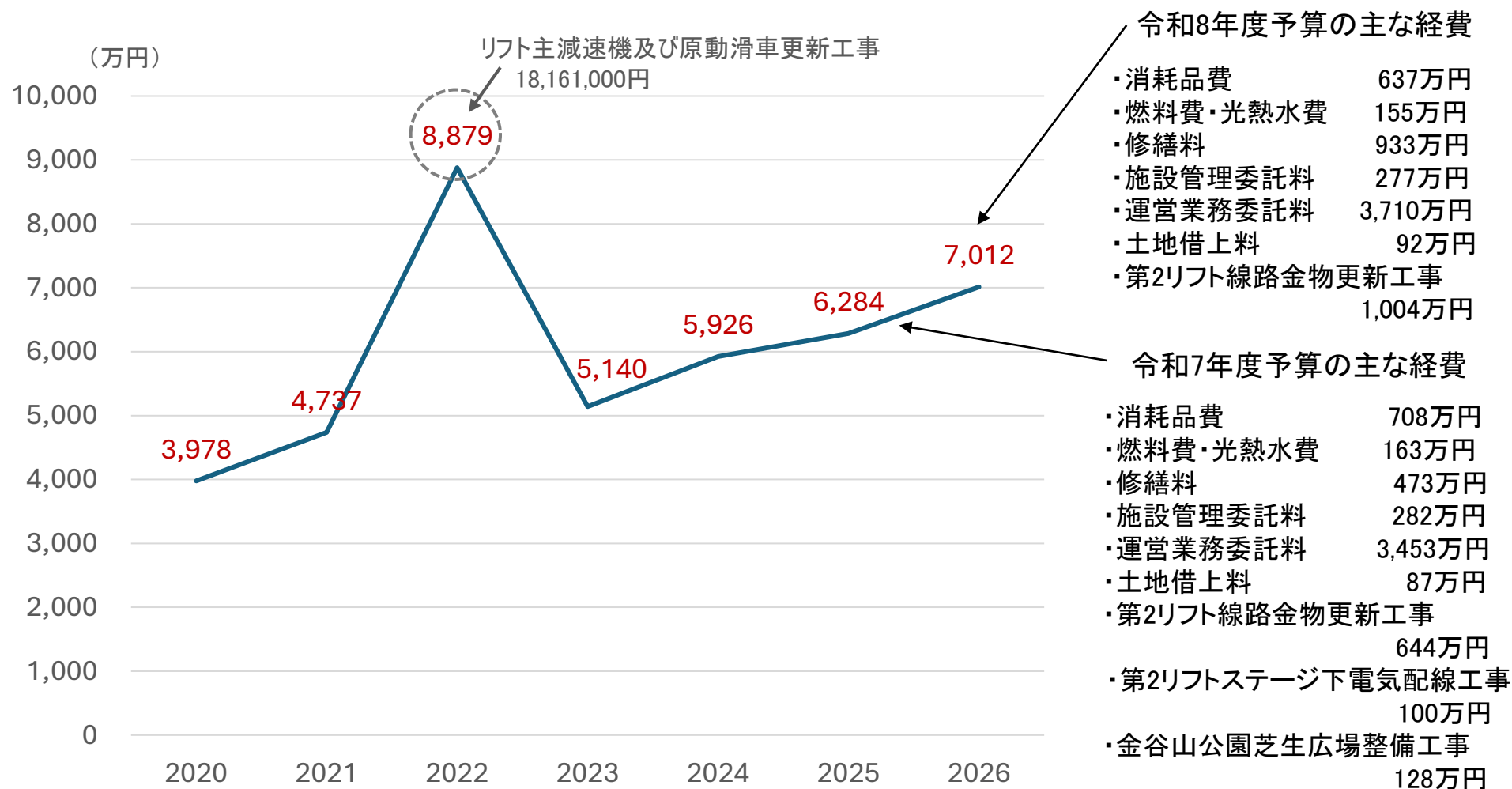
4 BMX場の利用者数の推移 (2018～2025年度)

- 近年のBMX場の利用者数は、減少傾向にある。
- 2025年度は、コロナ禍で落ち込んだ2020年度と同程度となった。



5 金谷山公園管理運営費の推移 (2020～2025年度)

- 金谷山公園管理運営費は、増額傾向にある。
- リフト等の運行管理にあたる職員の人件費のほか、老朽化した設備の更新や修繕に予算を要している。



6 主な観光施設を除く金谷山公園の活用事例

分野 世代	環 境	社 会	経 済
高齢世代	・上越ホタルの会 / 里山保全活動	・さくら千本の会 / 桜の植樹、ベンチの設置など	
社会世代		・上越若者みらい会議 / フリーマーケット、熱気球体験等(R6~) ・上越社会人サークル ロハス / 水鉄砲大会(R5.7.16) ・上越消防署 / 救助訓練	・上越妙高トレイルランニングレース実行委員会 / トレイルランニング大会(R7.11.2) ・ドローンの操作講習会
学生世代	・関根学園野球部 / 道路の路肩や側溝の清掃(神山町内会への協力)		
幼少世代		・ごきげんやさん / 乳幼児親子イベント(R6.5.19) ・認定こども園 森のこども園 てくてく / 乗馬体験、キッチンカー出店(R5.7.13)	

※上記のほか、犬の散歩や山菜取りなどで利用している方々の姿がみられる。

7 金谷山公園の観光施設の現状(まとめ)

スライド

②・③・④

1 リフト・スーパーボブスレーとも利用者数は減少傾向にあり、BMX場の利用者も含め、コロナ禍前の状況には至っていない。

スライド

②-1・②-2

2 特に、冬季リフト(スキー)の利用に関しては、雪不足やスキー人口の減少が続くと推測され、今後も利用者の回復は難しいと思われる。

※特定の愛好家やインバウンド市場などに活路を見出す可能性もゼロではないが・・・？

スライド⑤

3 リフト等の利用者数が減少する一方で、管理運営費は増加している。

スライド⑥

4 いくつかの団体等が公園を活用している(経済面の利用は少ない)。

金谷山公園の今後の在り方を討する際の基本的な考え方

現在の利用状況と見通しから、リフトなどを更新しても利用者の増加を見込むことは難しく、また、金谷山公園に新たに何かを「つくる」方法よりも、金谷山公園を「つかう」工夫が重要。

検討の視点 ※現時点のもの

【多世代協働】

将来の状況や利用方法を踏まえ、利用している世代だけでなく「多世代」で考える。

【民間活力の活用】

民間企業の資金やノウハウ(創意工夫)を活用し、行政の財政負担軽減、効率化、サービス向上を図る。